

17. 最上エコポリス構想

最上広域市町村圏事務組合及び山形県は、環境と人が共生する日本におけるモデル地域の形成を目指して、平成5年3月に最上エコポリス構想を取りまとめた。エコポリスとは、エコロジー（環境）とポリリス（街）との合成語で、自然と街が一体となり、環境と共生した生活ができる理想的な地域社会を意味する。

最上エコポリス構想は、『人と自然にやさしい定住環境の整備を目指す』ことを目標として策定され、その実現は、最上地域すべての人々が一体となって考え実践する、環境と人の共生と物の豊かさを共に実現する理想郷づくりの運動である。

構想の取りまとめにあたっては、早稲田大学都市計画佐藤研究室（統括 理工学部建築学科 教授 佐藤滋氏）が策定調査にあたった。

<構想の要旨> …… 最上エコポリス構想（平成5年3月策定）から

1 最上エコポリスの計画理念

- (1) 最上地域の豊富な環境資源の積極的な活用
 - ① 森林や川など豊富な環境資源を生活や産業に積極的に活用
 - ② 地熱、温泉、雪など天然資源を地域エネルギーとして活用
 - ③ まちや集落の拠点性を向上させ、歴史的にも環境と整合してきた生活空間を顕在化
- (2) 自然と共生した生活・産業システムの維持と創出
 - ① 集落の水循環や気候に適した住宅様式など自然と共生したシステムの活用・展開
 - ② 農林業を基幹にした地域産業システムの構築
- (3) 豊富な環境資源を取り入れた産業振興とエコロジカルな産業基盤の形成
 - ① 地域内での波及・展開が期待できる自立的・安定的・循環的なシステムの構築
 - ② 産業基盤施設のエコロジカルな開発整備やこれらを核とした産業インフラの形成
- (4) 円滑な行動・交流の空間と仕掛けづくり
 - ① 冬季の風雪に対応した日常生活の空間づくり
 - ② 地域内外の交流が増進するような仕掛けの創出による地域の活性化
- (5) 最上地域の中核としての新庄の拠点強化
 - ① 新庄の拠点性の向上
 - ② エコロジカルな手法による都市機能の整備

2 最上エコポリスの基本戦略

- (1) 最上エコポリスの拠点・エコシティ新庄の形成
エコシティ・楽雪都市（冬季における積極的なアメニティづくりを目指す都市）の機能整備
- (2) 最上エコポリスの骨格の環境空間としての最上川流域の環境デザイン
鮭川や最上小国川を含む最上川流域の自然と景観を活かしたエコロジー環境の創出
- (3) 地域資源と共生する産業を核とした地域経営システムの確立
農林業を中心とした地域産業の展開、環境と共生する産業基盤の確立
- (4) 遊動型環境学習の場の創出
地域内を周遊しながら自然と生活との共生関係を再認識できる環境学習の場の創出
- (5) 自然と共生する生活のデザイン
気候・風土に適合した生活空間の構築、ライフスタイルの実践

3 中長期戦略プロジェクト

- (1) 新庄楽雪都市拠点形成プロジェクト
新庄駅を起点とする中心市街地において劇場性や回遊性のある楽雪都市づくりを推進
- (2) エコ産業R&D（研究開発）パークプロジェクト
農林業を核とする地域産業における自立的・循環的システムの構築、研究開発拠点の整備
- (3) 遊学の森ネットワークプロジェクト
森の中で自然の仕組みを学び、遊ぶ空間を創出し、地域内外の交流を促進
- (4) 風水の里ネットワークプロジェクト
風水思想に適合する集落の立地環境を骨格として環境学習の場を創出
- (5) 最上川流域エコロジー環境創生プロジェクト
モデル立地を選定し、総合的なエコロジー環境を創生
- (6) モデルエコタウンの建設
積極的に自然環境を取り込んだ住宅建築や居住様式を実践する住宅地（エコタウン）の開発
- (7) 最上型楽雪集合住宅の実験、開発
独立した住宅と共用の楽雪施設、エコシステムにより豊かな集住の居住空間を形成
- (8) エコポリス・デザイン研究センターの創出
人材育成センターの創出（環境デザイン・研究開発・学術研究・環境学習・研修宿泊機能）

4 段階的な戦略的展開

- (1) 第1段階 基礎条件の整備と始動期（短期）プロジェクトの実施
「最上エコポリスふれあい施設群整備事業」に計画されている事業を実施し、最上エコポリスの理念を地域内の住民、行政、産業界へ周知・浸透させる。
- (2) 第2段階 モデル戦略プロジェクトの実施
東北中央自動車道など交通インフラの整備に先行して戦略プロジェクトを実践し、最上エコポリスの骨格を形成する。
- (3) 第3段階 最上エコポリスの成熟期
基本戦略に関する各種プロジェクトをネットワーク的に実施し、まちや集落などのエコポリス居住拠点を整備して、最上エコポリスを成熟させ、基本理念と目標を達成する。

<最上エコポリス関連施設整備事業（ふれあい施設群整備事業）>

最上エコポリス構想実現に向けた第1ステップの取組みに位置づけられ、最上エコポリス構想を広範にアピールしていくシンボル事業となるもの。

| 事業主体 | 事業・内容 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新庄市 | 雪国文化シンボル施設整備事業（H7～9） 雪の記念館、雪の資料館等 |
| 金山町 | モデルエコタウン整備事業（H5～9） 蔵の保全、散歩道、ポケットパーク等 |
| 最上町 | 前森高原整備事業★ 農遊館、コテージ、アイスクリーム工房、ハム工房、自然ふれあい館等 |
| 舟形町 | あゆっこ村整備事業★ 温泉、コテージ、テニスコート、ゲートボール場等 |
| 真室川町 | ふれあいの森整備事業（H6～9） ふれあいの森、ふれあいの池、クロスカントリー兼遊歩道 エコロジカルスポーツパーク整備事業（H8～13） 共生広場、多目的運動広場、親水広場 |
| 大蔵村 | 風水にふれる里整備事業（H6～9） 鎮守の杜、稲沢の渡し |
| 鮭川村 | 鮭川村エコパーク整備事業（H8～11） コテージ、オートキャンプ場等 |
| 戸沢村 | モモカミアルカディア眺河の丘整備事業（H5～9） 公園、高麗館等 |
| 最上広域市町村 圏事務組合 | 広域交流拠点施設整備事業（H9～11） 花と緑の交流広場、もがみ情報案内センター、もがみ体験館、ホール・アベージュ等 |
| 山形県 | 最上エコポリスふれあい回廊道路整備事業（H5～10） ネットワーク道路 |

※「平成12年度 最上エコポリス構想の概要」（最上広域市町村圏事務組合発行）を基に作成

★は「まちづくり特別対策事業」外の事業

<最上の地域づくり共通コンセプト>

平成 23 年 8 月、管内各市町村の申し合わせにより、今後の最上地域における地域づくりにあたっての共通コンセプトを『最上「環境共生地域」宣言～エコポリス「最上」の創造にむけて～』とし、最上総合支庁内の広報塔に掲示している。

最上地域はこれまで、最上エコポリス構想のもと、母なる最上川や秀麗な山々をはじめ、恵まれた自然・歴史・文化などを幅広く環境資源としてとらえ、これらの資源を最大限に活かし、暮らしやすく、環境の良さを享受できる地域社会づくりを進めてきました。

今日、地球温暖化に加え、東日本大震災による原子力発電所の事故を契機として、エネルギー対策や環境問題が改めてクローズアップされています。

安心して暮らせる環境を守り、環境に負荷をかけるライフスタイルを見直すとともに、持続可能で安定した社会生活を支えるという観点から、再生可能なエネルギー源の利活用なども提唱されており、今まさに地域の総合力をもってこの課題と向き合い解決していくことが求められています。

最上地域においても、バイオマス資源や自然エネルギーの活用を力点を置いて、エネルギーの地産地消を進めるとともに、エコ農業を基点とする地域ブランドづくり、地域資源を活かした観光の推進、農商工連携による総合的な産業の創出など、当地域に豊富に存在する環境資源の利活用を新たな視点に立って進めていく必要があります。

このように、最上の環境資源を改めて見直し、より一層活用して地域社会づくりを進めるための第一歩として、環境と人とが共生し、豊かで質の高い暮らしを実現する「環境共生地域」を目指すことを宣言します。

平成 23 年 8 月 22 日

新庄市 金山町 最上町 舟形町 真室川町 大蔵村 鮭川村 戸沢村 最上総合支庁